

5 H28以降の実施事項(案)

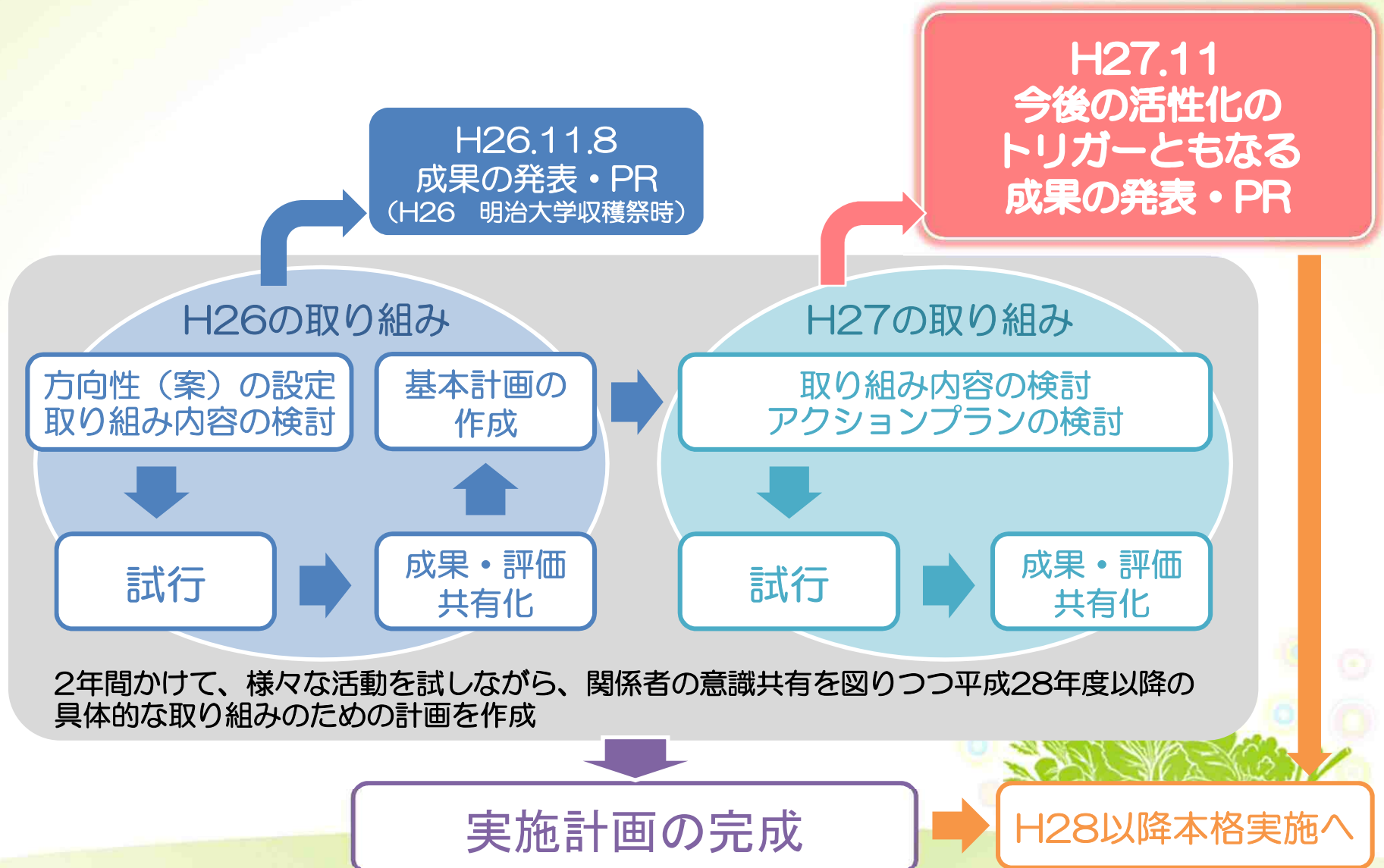
今年度末には、平成28年度以降の具体的な活動内容を基本計画としてまとめるが、平成27年度も今年度と同様試行的取り組みをしながら、最終的な活動内容を決定していく。

下記、実施事項は暫定項目であり、今年度の取り組みが全て終了後、再度精査を行う。

	取り組みの方向性	取り組み事項	具体的内容
農産物等研究専門部会	①新規農産物や加工品の開発検討	新規農産物や在来農産物の研究・栽培	地元農家への提案、協働実施
		農産加工品の開発、新規商品開発	農産加工品の検討、商品開発
		商品化、販売	ブランド化、試食会等によるPR
	②農産物のイベント活用やPRの推進	農産物や農園等のイベント活用	イベント支援、農産物等の提供
農産物や農環境のPR		マニュアル作成配布、種苗配布、試食会の実施	
地域活性化検討専門部会	①農と里山の体感	子供向けイベント・講座の開催	食農イベント・グリーンツーリズム
		一般向けイベント・講座の開催	農業体験＋料理教室
	②地域資源の発掘・創造・発信	地域資源の発掘・創造	地場産物を活用したレシピ研究
		農と環境のまちづくりの情報発信	HPの維持更新、散策PR
里地里山保全力活用専門部会	①里地里山の体験・人材育成	里山遊び体験・管理体験の実施	保全管理講座・イベントの開催
	②里地里山保全管理	市民団体等の里山活動支援	活動PR、イベント等の連携
3部会共通	地域コミュニティづくり	大学・地元農業者・市民農園等利用者等の交流	交流会の開催
	大学・地域連携	大学や地元農業者と連携した各種取り組み	大学・地元連携による研究・開発・イベント実施
	3部会共有イベント	3部会連携PR・イベントの実施	デザイン祭の開催(3年に1度)
	市民の意向の把握	アンケート等によるニーズ等の把握	収穫祭でのアンケート

6

<参考>平成26・27年度の取り組み



【平成27年度のデザイン祭(プレ)について】

～2年間の試行の総括と今後の活動の起爆剤として～

第1回黒川地域連携協議会 検討・確認事項等

【たたき台】



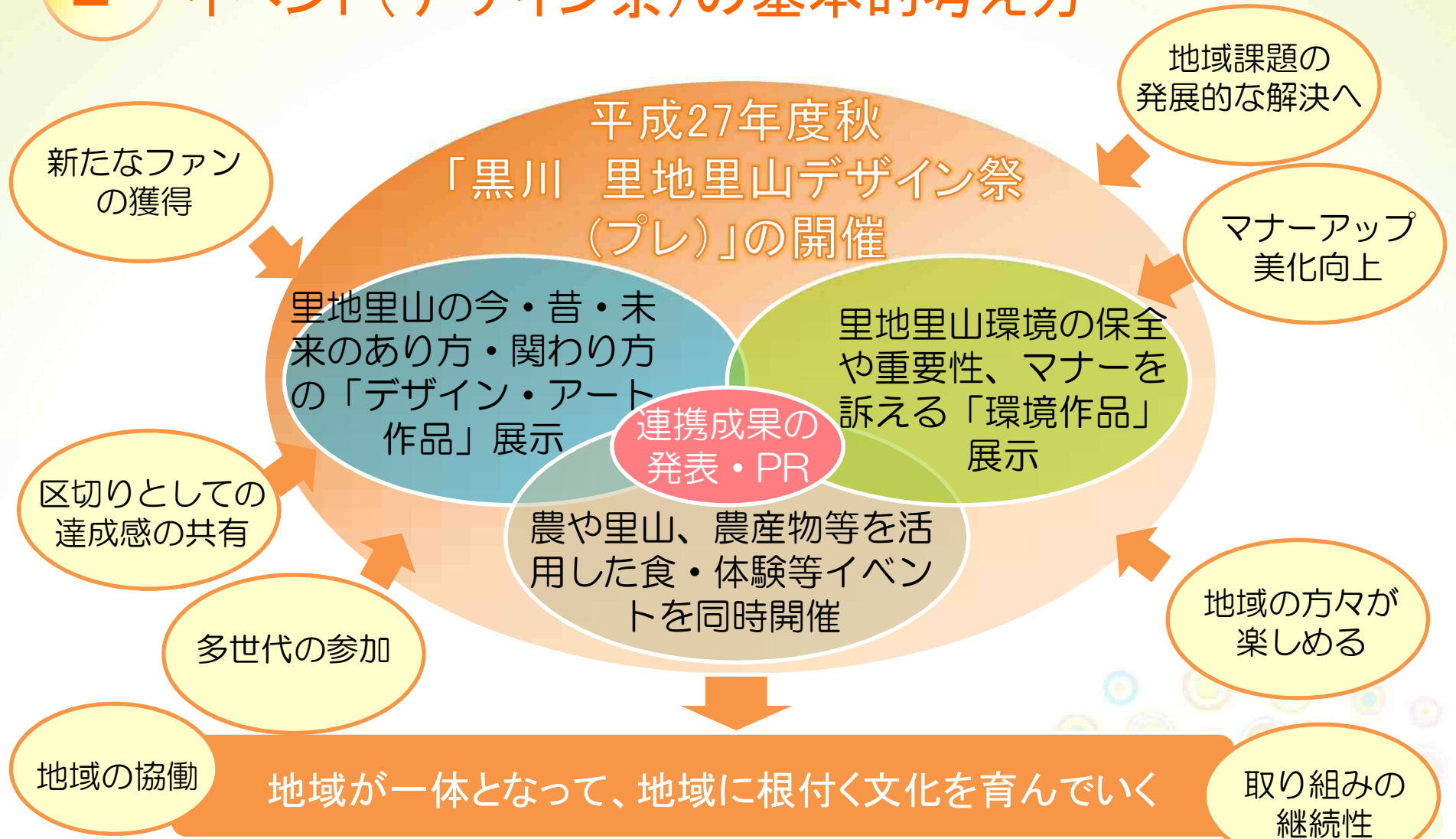
1 背景

基本目標の実現に向けた現状の取り組みの課題

課題	対応の視点	対応の方向性
各部会での情報発信・PRでは、 情報発信力がやや弱い。 試行的取り組みに対する 体感・実感 できる到達点が やや希薄。	達成感の共有化	関係者や地域が一体となって発信でき、2年間の試行の目標や達成感が持てる区切りとなるイベントの実施。
農と緑を主体とした取り組みでは、 興味対象が限定される。	興味対象の拡充	黒川の自然環境を舞台に、農と緑以外の手段により、新たなファンを獲得する。
生活に密着した活性化の取り組みが主体で、 農業者間での温度差が懸念される。	地域住民が楽しめる	農業者等地元の方々も楽しめ、やりがい、新たな発見を喚起する取り組みの実施。
一部、親子等参加はあるが総じて高齢者層等、 参加者の年齢層の偏り が懸念される。	多世代参加	次世代を担い、情報発信力のある若者を中心に多世代が関心を持てる取り組み。
単発的な取り組みでは 継続性や連続性 を持たせることが難しい。	継続性	黒川の、麻生区の、川崎市の文化として根付いていく取り組みの実施。

現状の課題の包括的解決を図りつつ、地域が一体となる「イベント」の開催

2 イベント(デザイン祭)の基本的考え方



- この取り組みも1つの試行であるため、収穫祭前後の期間限定のイベントとする。
- 27年度は試行とし、28年度本格実施する。

3

実施概要

テーマ

『黒川里地里山デザイン祭』

黒川地域の農と緑を活用したイベント

～農・人・時間・資源をつなぐ(仮)～

目的

黒川地域の里地里山をステージに、「地域-人-資源」をつなぎ、里地里山のあり方を考える機会とすることで、現在の黒川における農や環境を知り、地元住民だけでなく来訪者と課題を共有することで“自分事”にし興味者の拡大、ファンを獲得するものとする。「地域コミュニティづくり」「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」を主要目的とした地域住民と興味者のマッチングプロジェクト。

内容

「里山は人が自然を創造する最前線※」を理念に、黒川エリアを里地里山のあり方を考えるキャンパスと見立て、若者と地域住民等とが共創し地域に根ざした作品（もの、こと、食）を制作、継続的な地域展望を拓く活動を目的とするデザイン祭。

※里山＝自然と人里に隣接した、人の手や影響を受けた生態系や環境

地域住民・制作者・来場者ともに里山を考え、創造するイベント

制作者・地域住民

里山(黒川の環境)をテーマに
作品(もの、こと、食)を共創



来場者(興味者)

作品に触れ・体験し
里山の昔・今・未来を歩いて知る

4 基本的な進め方・実施体制等

(1) デザイン祭への進め方(基本的考え方)

- ・1つの目標に向かって、様々な主体が協働しながら、活動することで様々な課題をゆるやかに解決しながら、作品等をつくりあげていくプロジェクト
 - すなわち、デザイン祭までの過程・道筋が重要なプロジェクト
 - 地域・人・資源をつなぐプロジェクト
- (×単にアート作品を置く→○時間をかけ地域や人と対話しながら作品を制作)

(2) 推進体制

黒川地域連携協議会-----デザイン祭実行委員会(事務局)
(各専門部会のメンバー等により構成)

(3) デザイン祭の担い手

地元住民、地元農業者、市民農園や体験農園等に関わっている方々、セレサ川崎、神奈川県農業技術センター、明治大学(その他麻生区連携大学(和光大学、昭和音楽大学、日本映画大学、田園調布大学、玉川大学)、市民団体、近隣小学校、マイコンシティ関連企業、黒川青少年野外活動センター、麻生区役所、川崎市緑政部・産業振興部・農業振興センター、市民ボランティア等(順不動)



5 実施する主な枠組み(デザイン内容について)

本イベントにおいて、
「環境デザイン」「農産物デザイン」「ライフスタイルデザイン」を行うことで、
「興味者の獲得」から「共感・ファンの獲得」を視野に展開。

里地里山デザイン

＜「デザイン作品」創作・展示＞
里山をテーマに作品を展示。
今後の里山のあり方を想像するとともに、若者の参加を取り込む。
和光大学芸術学科協力



ライフスタイルデザイン

＜里地・里山体験＞
地元者と来場者の共有の場として体験イベントを実施。
ルート上での体験コーナー



ライフスタイルデザイン

＜スタンプラリー＞
各ポイントの参加を促進。



農産物デザイン

＜農産物商品の創作・販売＞
大学と連携し農産物による商品を
食べられる商品試食販売。



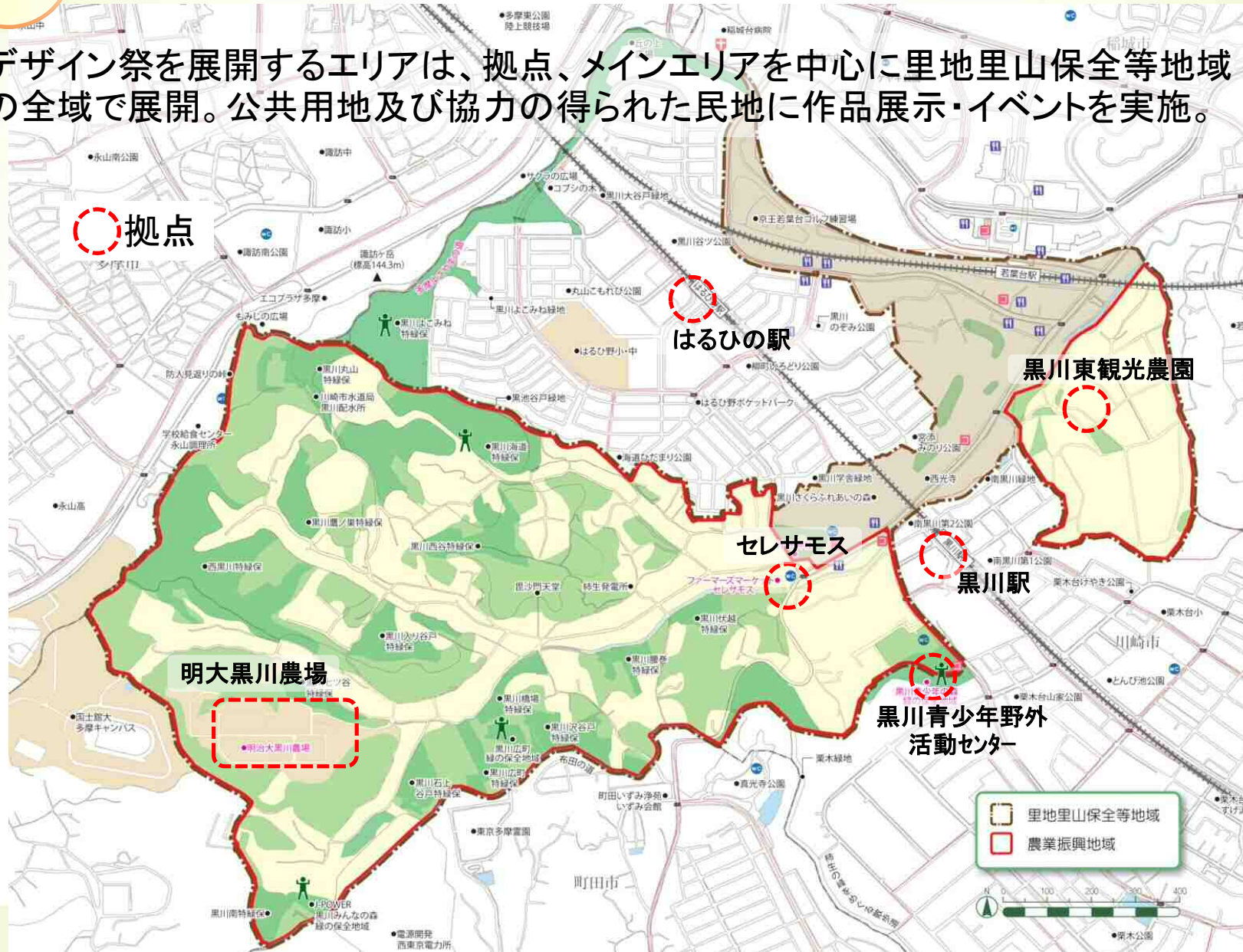
ライフスタイルデザイン

＜ボランティアとの協働＞
里山の暮らしを自分事にする
ことで共感獲得。



6 里地里山デザイン祭展開エリア

デザイン祭を展開するエリアは、拠点、メインエリアを中心に里地里山保全等地域の全域で展開。公共用地及び協力の得られた民地に作品展示・イベントを実施。



7 デザイン祭でのアイデア例

平成27年度の様々な協働作業の中での成果をデザイン祭として発現できる様々な企画を実施していく。下記は、参考としてデザイン祭取り組みの一例を提示。実際には各部会においても、アイデアを集い実施していく。

カテゴリー	実施事項	担い手
ライフスタイル デザイン	①小学生と大学の協働による里山遊び道具づくり →デザイン祭時に里山遊び場・イベント活用へ	近隣小学生、連携大学
	②大学と小学生によるビオトープづくり	小学生、連携大学、地元農家
	③地元ガイドによる里地里山ツアー	地元住民
	④小学生と市民団体による田んぼアート	小学生、市民団体、地元農家
里地里山デザイン	①大学と地元農家との協働による農のアート作品づくり	和光大学芸術学科、地元農家
	②大学生による森のアート作品づくり	連携大学
	③大学生と小学生によるecoデザイン環境作品づくり	連携大学、小学生
	④大学と地元農家による里山マナーアップサインづくり	連携大学、地元農家
農産物デザイン	①地元農家の主婦による地場野菜を活用した創作料理	地元農家の主婦
	②近隣レストランでの地場野菜メニューの提供	近隣飲食店
	③掘り取り体験と黒川産野菜を使った料理教室の開催	JAセレサ、東京ガス、麻生区

7

デザイン祭でのアイデア例(イメージフラッシュ)



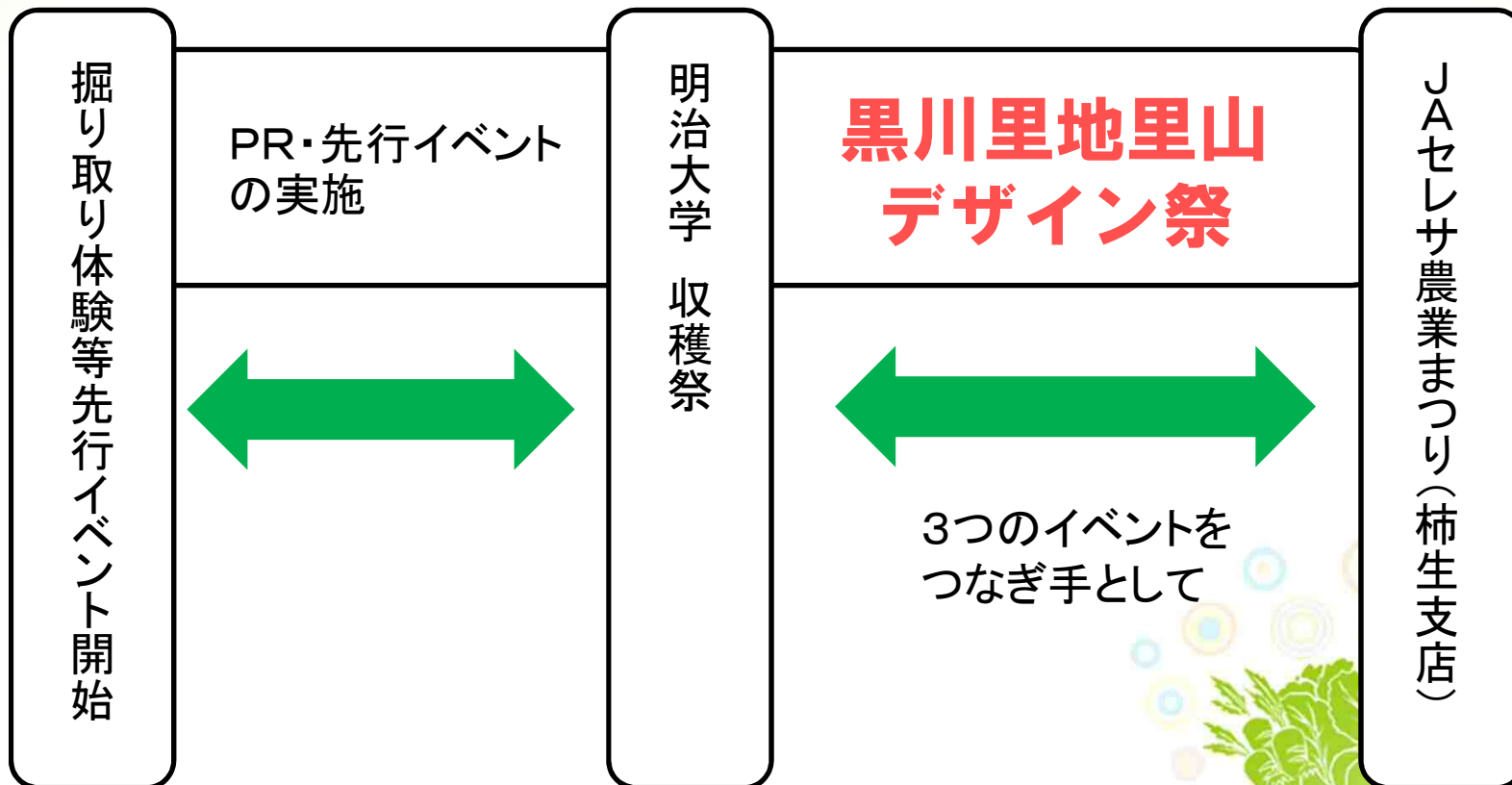
8 実施期間(たたき台)

平成27年度デザイン祭（プレ）では、明治大学の収穫祭をオープニングに、JAセレサ農業まつりまでの期間を開催とし、3つのイベントのつなぎ手の役割を果たす。

10月初旬

11月初旬

11月中旬



オープニング

フィナーレ

9

開催に向けたスケジュール

平成26年10月	平成26年度第2回黒川地域連携協議会 平成27年度デザイン祭（プレ）骨子案決定
平成26年12月	具体的実施事項案の決定
平成27年1～4月	担い手との調整
平成27年5月	作品やイベントづくりスタート
平成27年6月	第1回黒川地域連携協議会
平成27年8月	デザイン祭に向けたPRイベント （各種イベントを集中的に実施し、PR）
平成27年9月	本格的PR開始
平成27年10月	第2回黒川地域連携協議会 作品やイベントの現地準備開始 デザイン祭プログラムの完成
平成27年11月	デザイン祭及び収穫祭の開催



10 開催に向けた留意事項・調整事項

円滑な開催に向け、以下のような留意事項、また事前に調整すべき事項があげられる

- 黒川デザイン祭の運営をどのように行うか（平成27年プレ実施、平成28年本格実施後、協議会において検討が必要であり、平成29年以降については、関係者による実行委員会形式にする等）
- 地元住民の参加
- 活用可能な場の確保（公共用地及び民地）
- 担い手との調整
- PR戦略

